

# FCVビジョンにおける重点取組の実施状況について

府普及目標 (2020年度)	目標達成に向けた主な重点取組		これまでの取組状況
FCV: 1,500台 水素ST: 7箇所 (主要な交通結節点等)	(1)初期需要の創出	①FCV ア 京都府の公用車に率先導入し、日常の業務や防災訓練に加え、イベント等で積極的に活用するとともに、市町村における公用車への導入を促進する。	・公用車にFCV(MIRAI)を導入(H29) ・環境フェスティバル等のイベントにおいて、FCVの展示や外部給電機を活用した給電デモ等を実施(H28～) ・京都縦貫自動車道全線開通記念イベントにおいて、FCVの展示・試乗会を実施(H27)
イ FCVの購入に係る府民の負担軽減を図るため、現在、EV・PHV・FCVに対して実施している「京都府電気自動車等の普及の促進に関する条例」に基づく自動車税等の減免(～平成28年度)について、継続実施の必要性を検討する。		・「京都府電気自動車等の普及の促進に関する条例」の有効期間を平成30年度末まで継続 ・検討中 (有効期間をさらに2年間(2020年(平成32年)度末まで)延長できないか)	
②水素ステーション ア 水素エネルギー関係事業者への地域情報の提供や、地元理解を得るための取組等を通じ、府内の交通結節点周辺を中心に、水素ステーションの整備を促進する。		・府内に2カ所の水素STが開設 ・市町村から水素ステーションの適地に関する情報を収集し、当該情報を水素エネルギー関係事業者へ提供 ・検討中 (民間企業と連携しながら、さらなる整備を促進できないか)	
イ 将来の低炭素な水素社会の実現に向けて、再生可能エネルギー由来の電力で水を電気分解して得られる水素を供給するクリーンな水素ステーションを先行導入する。	検討中 (再生可能エネルギー由来の水素ステーションをユーザーの利用ニーズをふまえたうえで導入できないか)		
普及状況 (平成30年3月末)	(2)技術開発の促進と関連産業の振興	① 産学公の連携等を通じて、固体水素源型燃料電池システムの実用化の研究など、京都発の水素エネルギー利用の新たな取組を促進する。	地域産業育成産学連携推進事業(商工部局)において京都大学等によるプロジェクトチームによる固体水素源型燃料電池システムに関する研究を支援(H28)
② 水素エネルギーの社会実装に向けたモデル的取組として、燃料電池バス、燃料電池フォークリフト等の普及拡大のための実証事業などを推進する。		検討中 (民間企業との連携による導入や誘致ができないか)	
③ リサイクルが難しい食品残渣から水素エネルギーを回収し利用するため、エネルギー回収に適した食品残渣からの水素発生量等を調査するとともに、エネルギー回収技術の実用化を促進する。		市町村や事業者等と連携し、食品廃棄物を活用した水素生成の事業化に向けた実証を実施(H28)	
京都府 FCV: 37台 水素ST: 2箇所	(3)規制の見直しに向けた国への要望	FCVの普及と水素ステーションの整備の促進に向けて、国に対し、安全性の確保を前提に、公道と水素充填設備との離隔距離の短縮、路上での燃料切れに対応するための公道充填に関する基準整備など、規制のさらなる見直しを要望する。	日本海側地域の国庫補助対象地域への追加、技術の進展に応じた規制緩和、技術促進のための財政支援の拡充等について、政府要望
関西広域連合 FCV: 266台 水素ST: 16箇所	(4)府民の理解促進	① 「森の京都博(仮称)」、「環境フェスティバル」など、府の主要イベント等において、自動車メーカー等と協力して、FCVの展示や試乗会等を実施する。	・環境フェスティバル等のイベントにおいて、FCVの展示や外部給電機を活用した給電デモ等を実施(再掲) ・京都縦貫自動車道全線開通記念イベントにおいて、FCVの展示・試乗会を実施(再掲)
② 観光振興と次世代自動車の普及促進を目的として関西広域連合が実施している「EV・PHV写真コンテスト」等を通じ、FCV等の魅力を発信する。		・第5回コンテストから対象車種にFCVを追加し、平成30年度には第8回コンテスト実施 ・関西広域連合において、FCV普及啓発冊子を作成し、エコカー検定を実施(予定)。また、「関西圏の水素ポテンシャルマップ」を取りまとめ、広域的に情報発信	
③ 災害等の非常時において避難所等に電力供給を行うことができるFCVの自立分散型電源として機能をアピールするため、防災訓練等におけるFCVの活用を推進する。		検討中 (災害時における公用車FCVの被災地派遣に関する体制構築ができないか) (公用車EVを活用して実施している防災訓練においてFCVを活用できないか)	
④ 水素の安全性や利便性について府民に正しく理解していただくため、水素に関するセミナーやシンポジウム等を開催するとともに、府の広報媒体を通じた広報・啓発等を実施する。		・京都環境フェスティバルにおいて、「水素社会」を体感いただける特設ブースを開設(H28) ・京都スマートシティエキスポにおいて、水素をテーマとしたセミナーを実施(H26、H28)	
⑤ 2020(平成32)年のオリンピック・パラリンピック東京大会に向け、バス、タクシー等へのFCV等の導入を促進し、京都を訪れる国内外の観光客にCO2フリーの観光を提供する。		検討中 (民間企業との連携による導入や誘致ができないか)	

直近の課題(論点)

水素ステーションを増やしていくには？

FCバス、FCフォークリフト等の実現可能性は？

災害時や防災訓練におけるFCVの活用方策は？

FCV・水素インフラの普及に向けた一層の取組の促進が必要